

2020年12月期 第2四半期 決算説明資料



株式会社 ヴィンクス
2020年 8月 28日

証券コード : 3784

2020年12月期 第2四半期の決算概要

- ・決算ハイライト … P 4
- ・分野別状況 … P 5
- ・営業活動における主なトピックス … P 9
- ・主要プロダクトの実績状況 … P 10
- ・withコロナ時代における市場の変化と
当社の注力ソリューション … P 13
- ・通期業績予測、配当
財務状況、キャッシュ・フローの状況 … P 23

2020年12月期 第2四半期の 決算概要

【2020年12月期 第2四半期 総括】

売上高につきましては、小売業におけるキャッシュレス化、マルチベンダー化（ハードウェアとソフトウェアの分離）のニーズの高まり等により、プロダクト等の開発売上が増加しました。一方、新型コロナウイルスによる顧客の店舗休業および店舗展開計画の延伸により、ハードウェア販売等の売上は減少しました。

利益面につきましては、開発生産性の向上により各段階利益が計画値・前年値を上回りました。

単位：百万円（百万円未満切捨て）

科目名	2020年上期		計画対比 (2020年2月12日発表)				2019年上期対比			
	実績値	売上比	計画値	計画比	計画差	売上比	実績値	前年比	前年差	売上比
売上高	14,082	—	14,700	95.8%	▲617	—	14,264	98.7%	▲182	—
売上総利益	3,453	24.5%	3,414	101.2%	39	23.2%	3,304	104.5%	148	23.2%
販売管理費	2,331	16.6%	2,444	95.4%	▲112	16.6%	2,343	99.5%	▲12	16.4%
営業利益	1,122	8.0%	970	115.7%	152	6.6%	961	116.7%	160	6.7%
経常利益	1,130	8.0%	958	118.0%	172	6.5%	914	123.7%	216	6.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	694	4.9%	620	112.0%	74	4.2%	669	103.7%	24	4.7%

1. アウトソーシング分野につきましては、主に海外を中心とした顧客の店舗休業およびサービス内容変更等により、利用料サービスの売上高が減少し、計画値、前年実績値を下回りました。
2. ソリューション分野につきましては、緊急事態宣言によるシステム導入の遅延影響により計画差が発生しましたが、売上高、営業利益ともに前年実績値を上回りました。
3. プロダクト分野につきましては、POS案件等の拡大により、売上高、営業利益ともに計画値、前年実績値を上回りました。

単位：百万円（百万円未満切捨て）

【売上高】	2020年上期		計画対比			2019年上期対比		
	実績値	売上比率	計画値	計画比	計画差	実績値	前年比	前年差
アウトソーシング分野	4,371	31.0%	4,814	90.8%	▲443	4,753	92.0%	▲382
ソリューション分野	5,537	39.3%	5,626	98.4%	▲89	5,409	102.4%	128
プロダクト分野	1,774	12.6%	1,425	124.5%	349	1,362	130.2%	411
その他IT関連分野	2,398	17.0%	2,833	84.6%	▲435	2,738	87.6%	▲339
合計	14,082	100.0%	14,700	95.8%	▲617	14,264	98.7%	▲182

【営業利益】	2020年上期		計画対比			2019年上期対比		
	実績値	売上比率	計画値	計画比	計画差	実績値	前年比	前年差
アウトソーシング分野	319	7.3%	342	93.1%	▲23	369	86.4%	▲50
ソリューション分野	532	9.6%	488	109.0%	43	464	114.7%	68
プロダクト分野	197	11.1%	85	229.7%	111	83	235.3%	113
その他IT関連分野	73	3.0%	52	139.8%	20	43	167.6%	29
合計	1,122	8.0%	970	115.7%	152	961	116.7%	160

分野別状況



分野別状況（補足資料:項目別）

＜ソリューション分野とプロダクト分野の過去4年推移（上期）＞

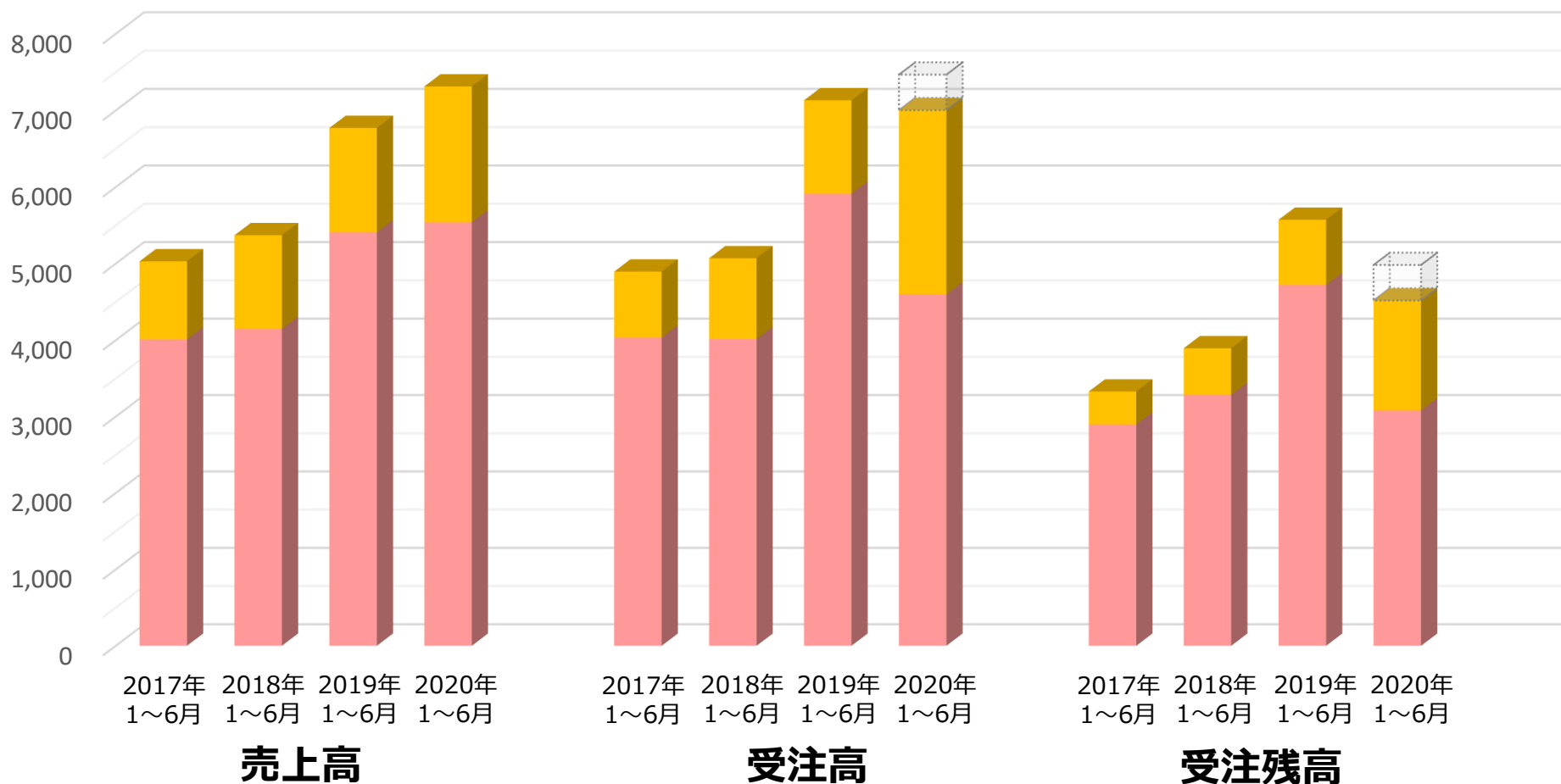
主要ビジネスであるソリューション・プロダクト分野については、新型コロナウイルスの影響により、受注時期に一部遅延がありましたが、概ね順調に推移しております。

（百万）

■ ソリューション分野

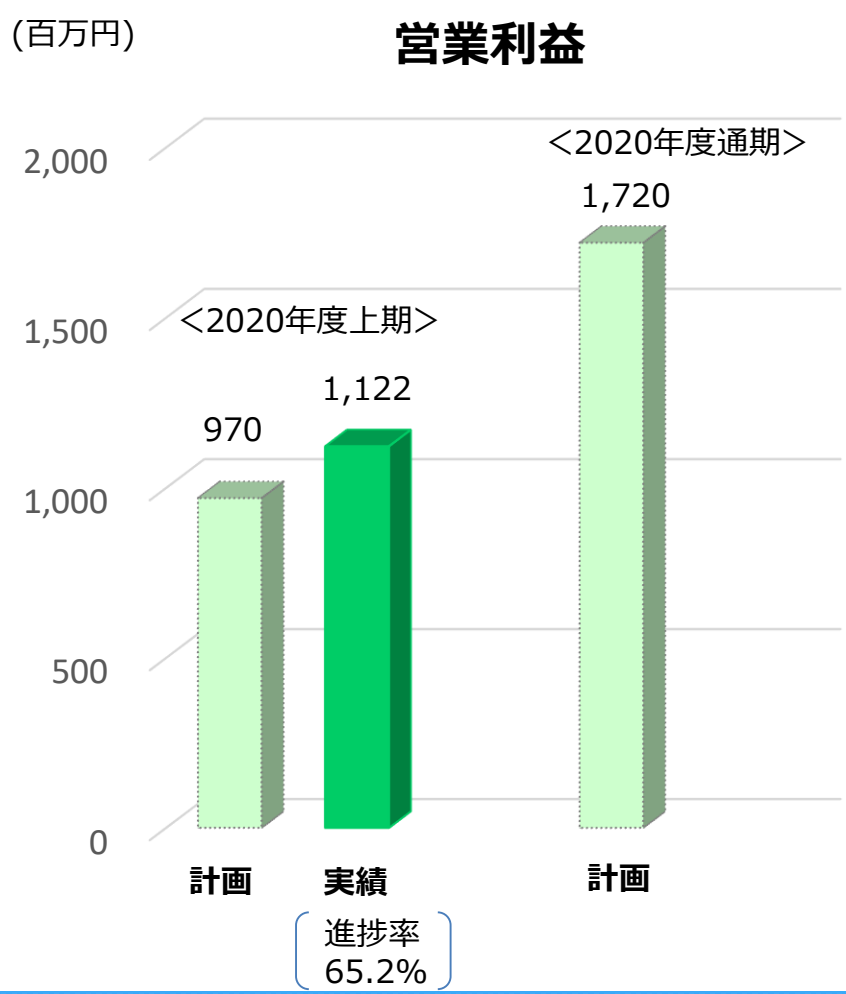
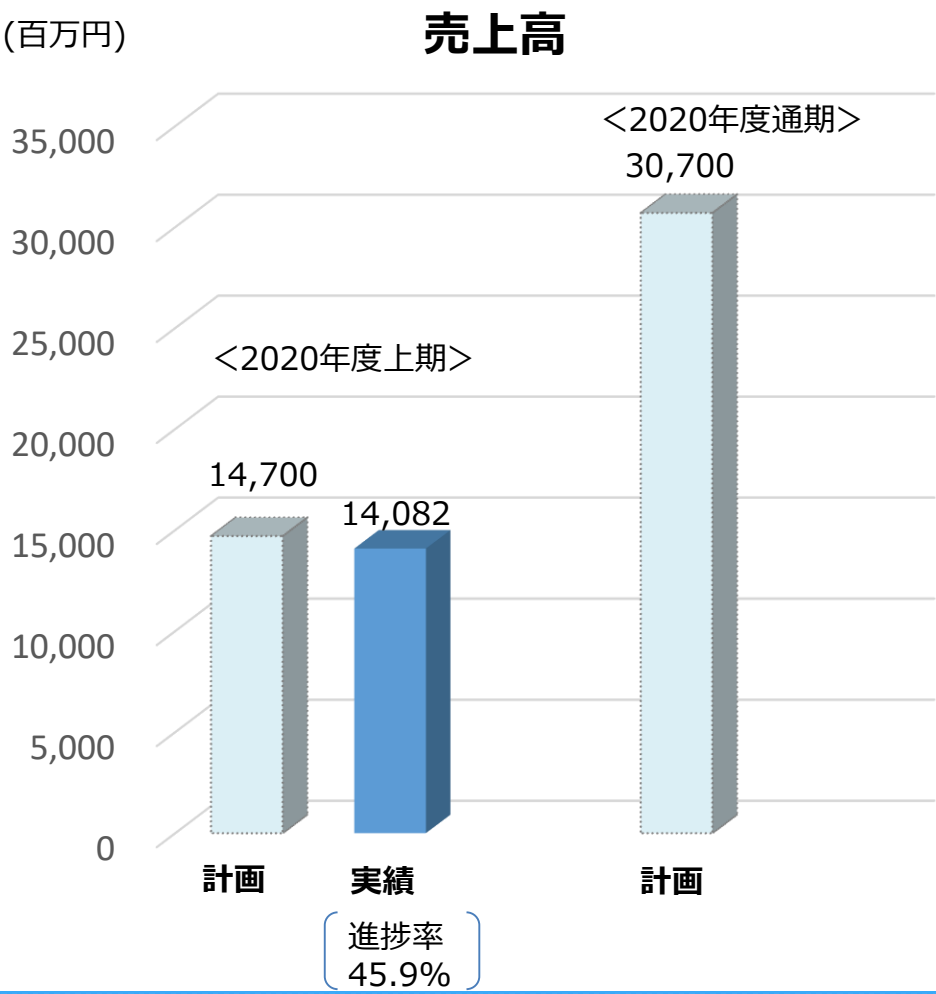
■ プロダクト分野

□ コロナ影響による受注遅延



2020年度売上高・営業利益 進捗状況

新型コロナウイルスの影響による顧客の店舗休業および店舗展開計画の延伸により、ハードウェア販売等の売上は減少しましたが、主要ビジネスであるソリューション・プロダクト分野によって、利益を順調に確保しています。



戦略の実行
リテール
ニュー

スーパー

○次世代キャッシュレス・セルフPOS

関東地方を中心として展開する大手スーパー様より、次世代キャッシュレス・セルフPOSシステムの導入案件を受注いたしました。

特定顧客
事業の深耕

流通・
サービス

○キャッシュレス決済システム

全国にショッピングモールを展開するディベロッパー法人様より、海外のキャッシュレス決済システム対応案件を受注いたしました。

流通・
サービス

○基幹システム

大手総合小売業グループ様より、ファシリティ関連の基幹システム構築案件を受注いたしました。

プロダクト
事業の強化

食品
スーパー

○自動発注システム

関西の生協グループ様や、東京都・神奈川県を中心として展開する食品スーパー様、および兵庫県を中心として展開する食品スーパー様より、「MDware自動発注」の導入案件を受注いたしました。

リテール
ソリューション
事業の拡大

スポーツ用品
メーカー

○会員システム（EC分野）

大手総合スポーツ用品メーカー様より、会員統合基盤の構築案件を受注いたしました。

流通・
サービス他

○RPA（Robotic Process Automation：これまで人間が行ってきた定型的なパソコン操作をソフトウェアのロボットにより自動化することをいいます）

小売業・卸売業等 8 社のお客様より、RPAの導入案件を受注いたしました。また『BizRobo! Family Awards 2020』において、「デジタル・トランスフォーメーション賞」を受賞しました。

ホーム
センター

○POSシステム

東日本を中心に展開する大手ホームセンター様より、次期POSシステムの開発案件を受注いたしました。

主要プロダクトの実績状況 <POS関連>

VINX

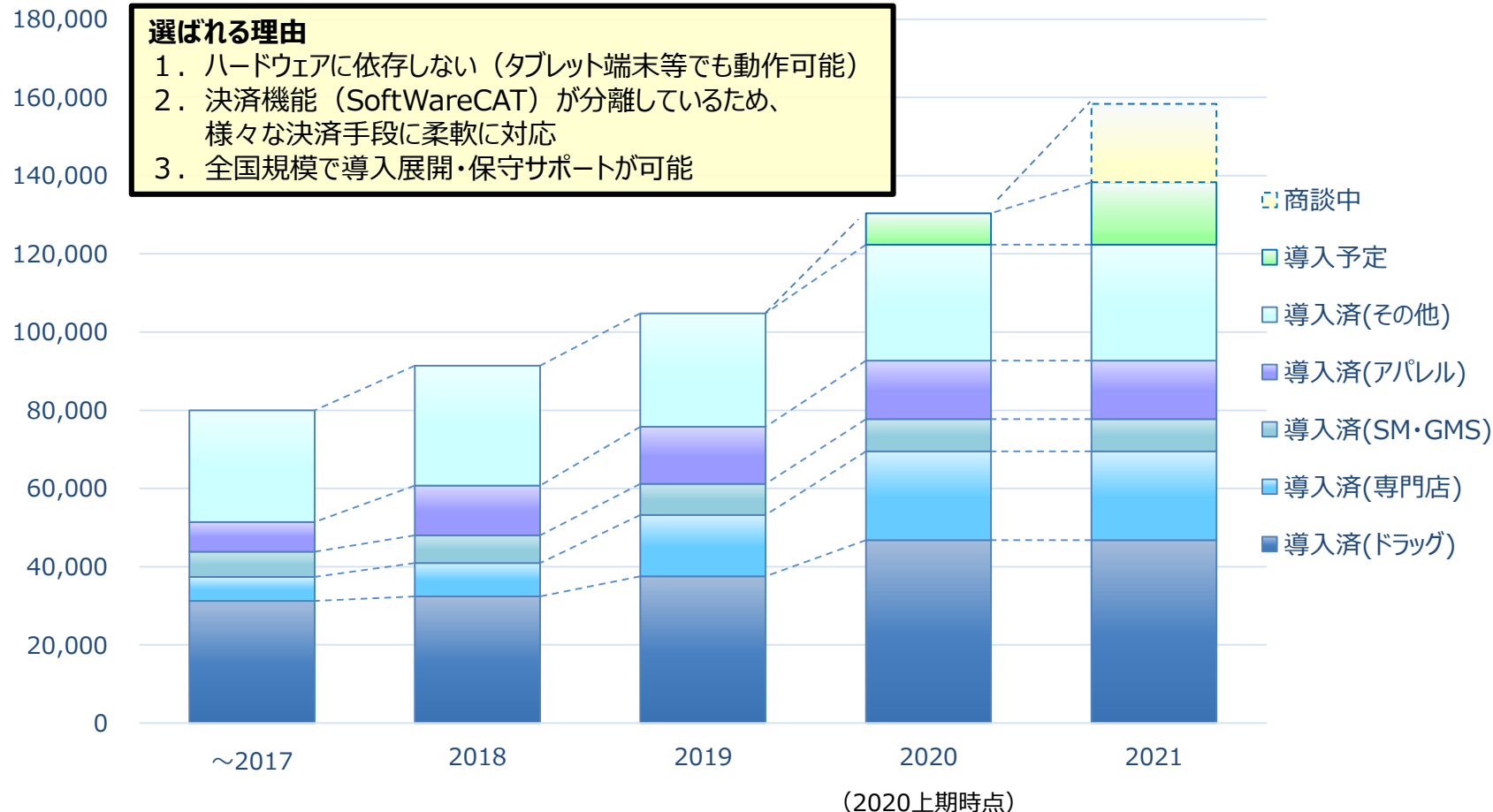
POSパッケージ（ANY-CUBE・SoftWareCAT）の導入は、順調に推移しております。

台数(累計)

累計導入台数

選ばれる理由

1. ハードウェアに依存しない（タブレット端末等でも動作可能）
2. 決済機能（SoftWareCAT）が分離しているため、様々な決済手段に柔軟に対応
3. 全国規模で導入展開・保守サポートが可能



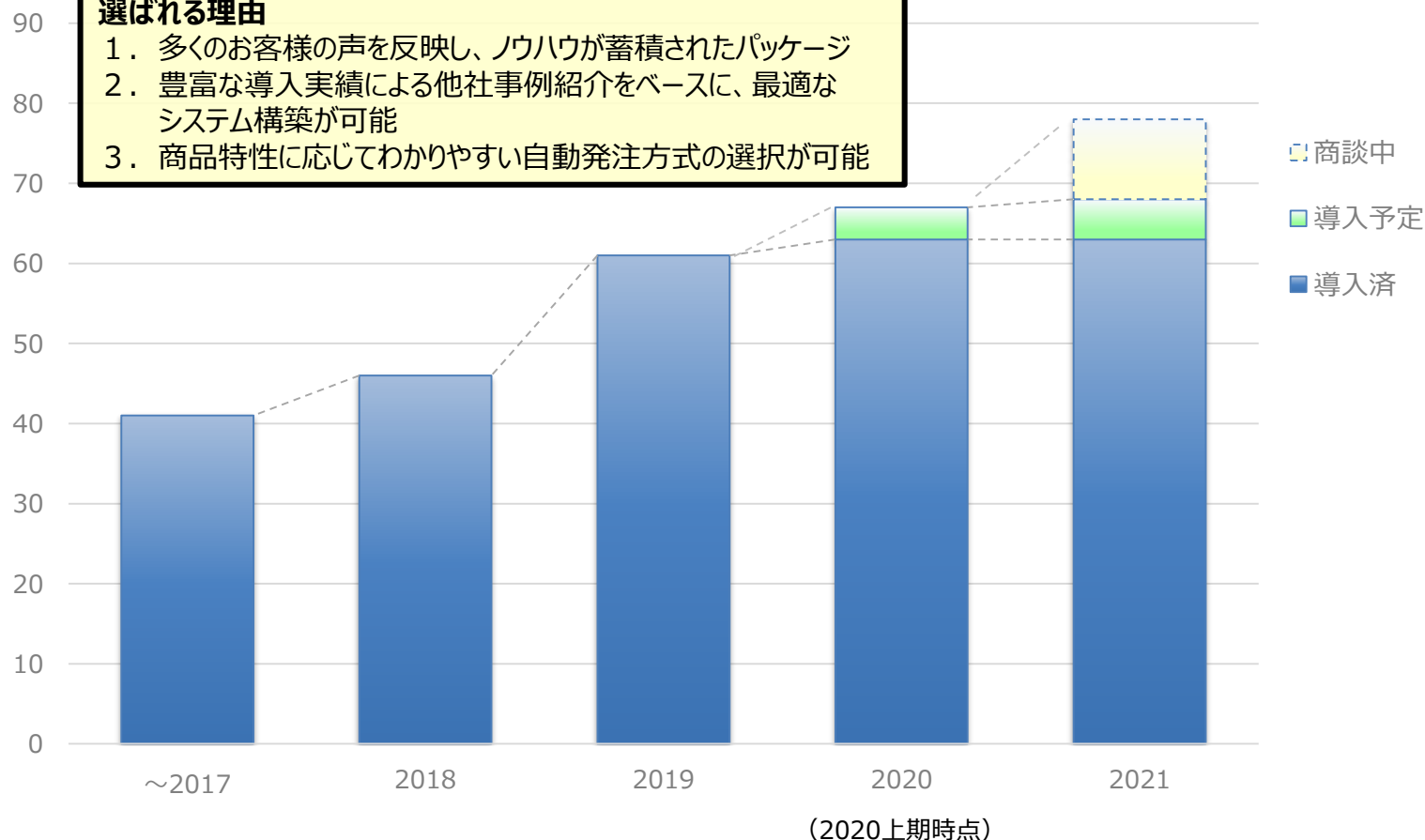
主要プロダクトの実績状況 <MD・自動発注>

社数(累計)

MD基幹システム・自動発注 導入件数

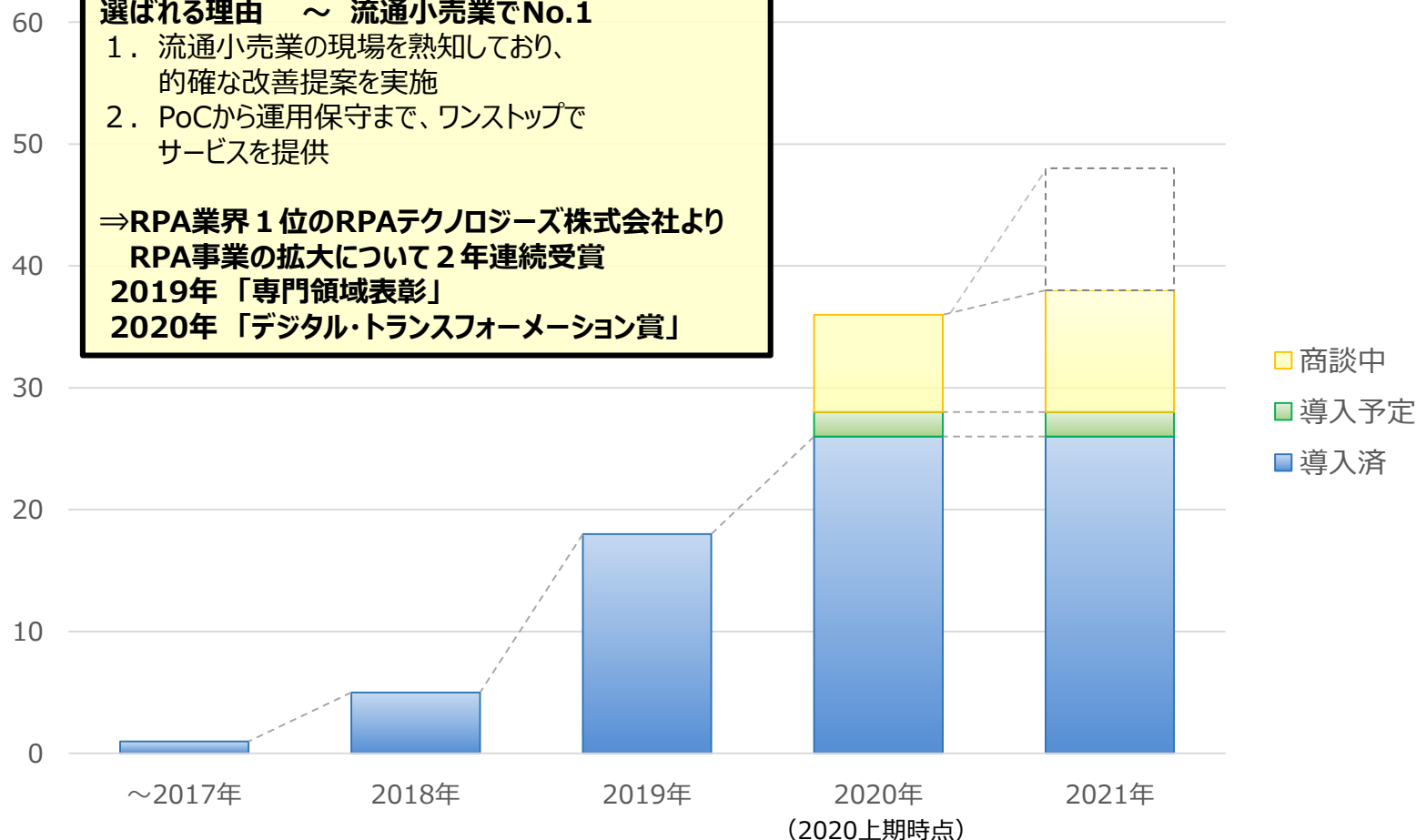
選ばれる理由

1. 多くのお客様の声を反映し、ノウハウが蓄積されたパッケージ
2. 豊富な導入実績による他社事例紹介をベースに、最適なシステム構築が可能
3. 商品特性に応じてわかりやすい自動発注方式の選択が可能



2017年よりBizRobo!の販売パートナーとして、流通小売業のお客様を中心にRPA導入を推進。導入社数は順調に推移し、お客様の業務改善に貢献しております。

社数(累計)

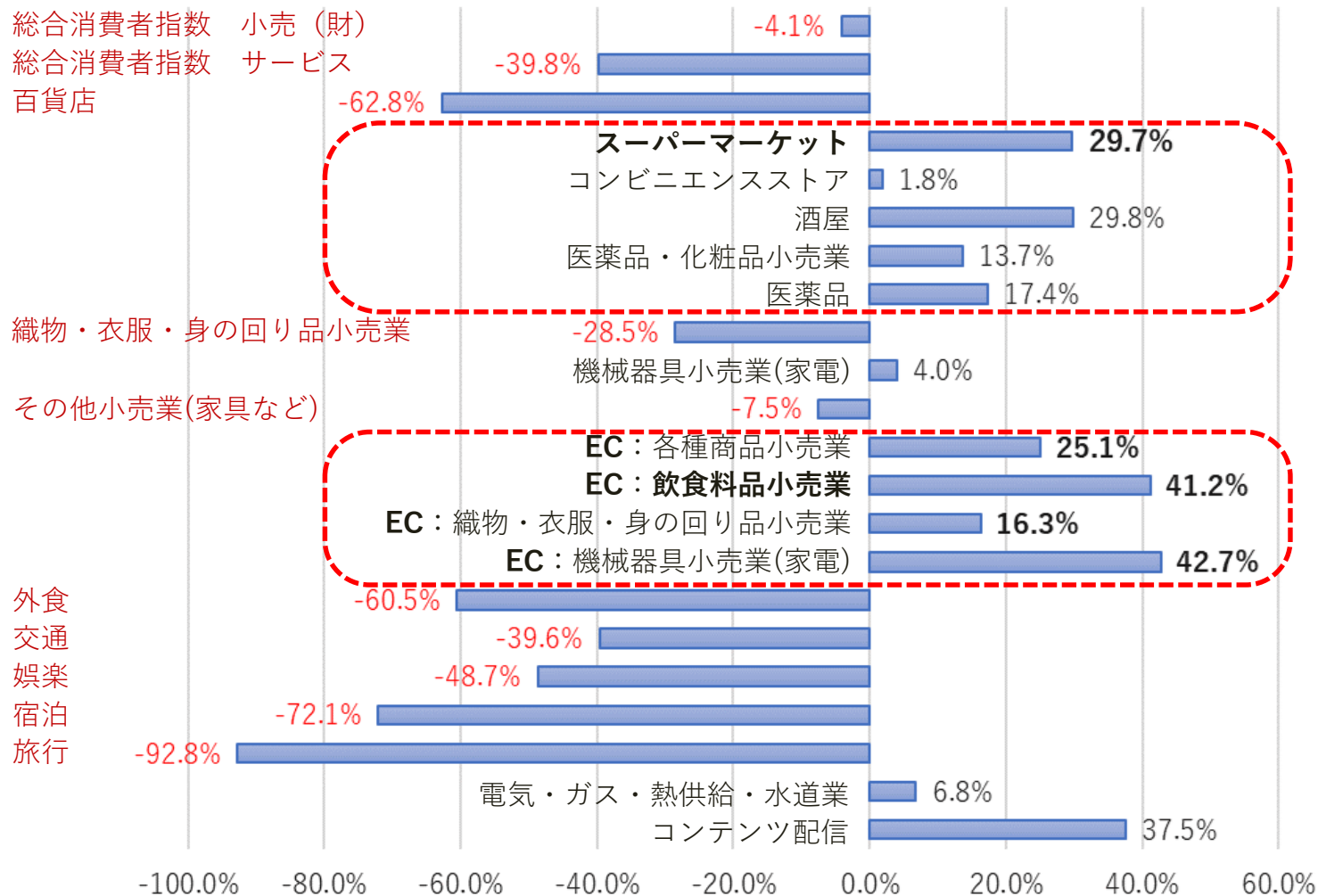


withコロナ時代における市場の変化と 当社の注力ソリューション

【市場動向】小売業とE Cの成長

コロナによる緊急事態宣言の発令後、消費全体が減速する中、当社の主要顧客セグメントであるスーパーマーケット・ドラッグストア、およびE C分野はプラス成長となりました。

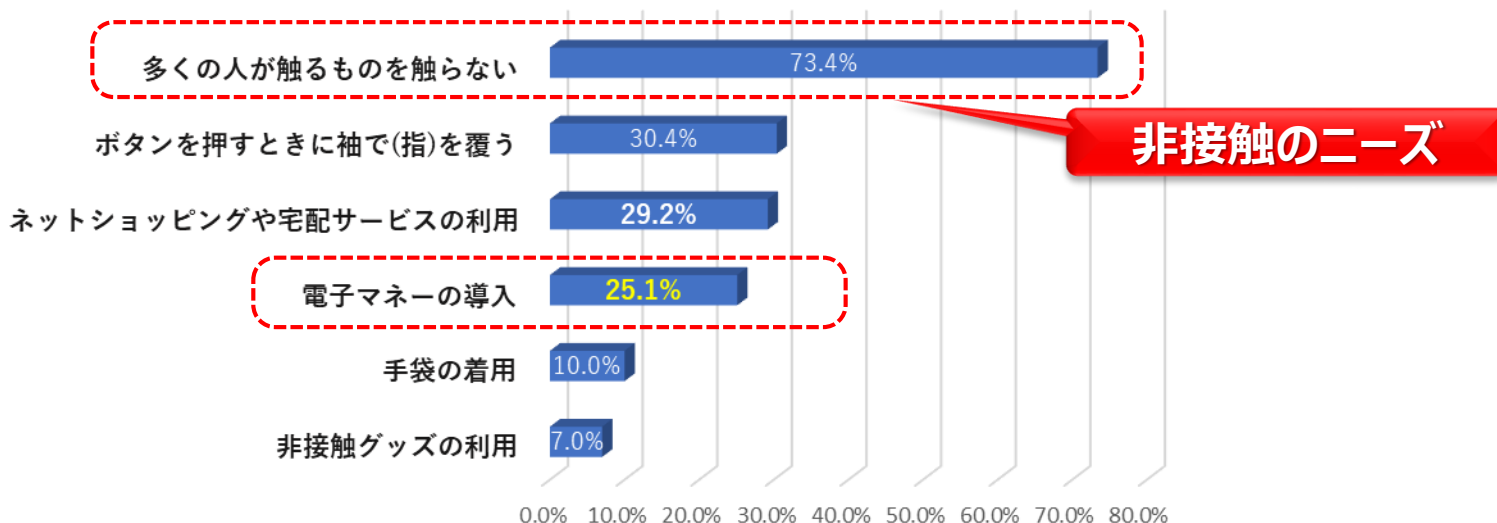
コロナ感染拡大前に対する国内消費動向指数（1月後半と4月全体の比較）



【市場動向】店舗におけるリスク意識の高まり

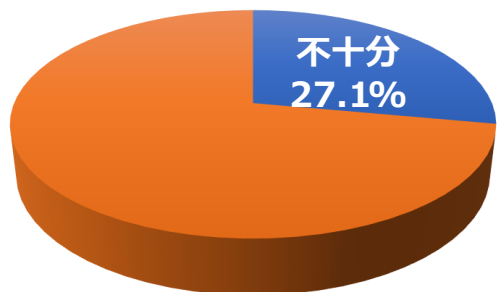
VINX

人やモノとの接触を避けるために**意識したり、変えたりした行動**

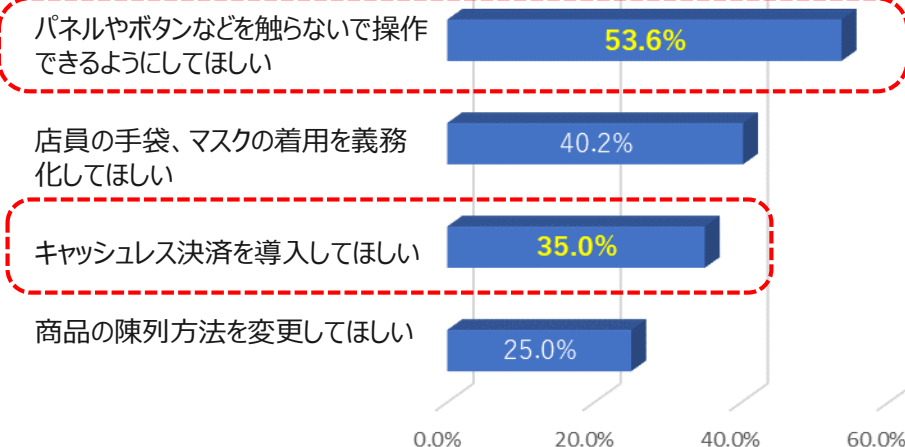


➤ やってほしい対策1位は「非接触で操作できるパネルやボタンの導入」

● お店や施設などの非接触の対策について



● 不十分だと答えた336人の希望



【市場動向】小売業における変革の事例

VINX

自動化・省人化

(1)Amazon 無人店舗 「Amazon Go」



(2)国分グローサースチェーン 「スマピット」

VINX 無人コンビニ



(3)イオン 物流自動化 「Ocado」導入

…次世代ネットスーパー



(4)受発注の自動化

VINX 自動発注・AI需要予測の導入加速

VINX の取組み

- ①MDware自動発注 …P17
- ②RPA …P18

ネットとリアルの融合

(1)アリババG 食品スーパー 「盒馬鮮生」(フーマーシンシェン)

リアル店舗機能
+ EC・物流機能



その場で調理や
30分以内の配送も可

(2)マルイ 「モノを売らない店」

…顧客体験を提供する店
D2C活動を支援
(Direct to Consumer…製造から消費者への直販)



VINX の取組み

- ③セールスフォースと協業 …P19
＜VINX Commerce-Gate＞

スマートストア化

(1)トライアルグループ 店舗全体で、多数のITを活用 メディアとして運営、効率化と販促を追求

VINX スマートショッピングカート

販促クーポン発行
ウォークスルー決済

※VINXグループ共同開発



リテールAIカメラ

欠品検知、顧客行動分析

デジタルサイネージ

販促の最適化



(2)カスミ カスミラボ

無人店舗の実証実験

Scan & Go
スマホPOS



VINX キャッシュレス・セルフ化

※VINXグループ共同開発

VINX の取組み

- ④スマートショッピングカート …P20
- ⑤キャッシュレス・セルフPOS …P21
- ⑥リテールプラットフォーム …P22

①VINXにおける自動化・省人化＜MDware自動発注＞

作業エリアの密を解消

自動発注による店舗の密を改善



販売基準型自動発注システム
需要予測型自動発注システム

【MDware導入実績】

2020年上期	5社
累計	68社

店舗の発注作業を自動化することで省人化を実現し、売場での従業員の密を解消

【需要予測AIとの連携イメージと導入効果】

来店客数予測 → 発注精度向上

MDware需要予測機能の
Input情報となる客数を予測し、
発注精度を向上。



発注作業時間の削減

機会ロス/廃棄ロス削減

店在庫の適正化

来店客数予測は、過去3年間の日別・店舗別の客数実績をベースに、気象情報や販促計画、店舗特性などに基づき、直近1週間のレジ通過客数を予測するサービスとなります。小売店の店長に代わって、来店客数の数値を算出することで、店長業務の軽減はもちろん、知識や経験によって個人差のある予測精度を底上げし、ロスの削減を実現いたします。

②VINXにおける自動化・省人化＜RPA＞

作業エリアの密を解消 バックオフィス業務の自動化で オフィスの密を解消

- ・RPAロボットによる定型業務のリモート実行
- ・AI OCR技術による帳票処理業務の省力化
- ・最小限のIT投資による複数部門の業務改善

【RPA導入実績】

2020年上期	8社
累計	26社

【当社の評価】

2019年の第1回開催に続き、RPAテクノロジーズ社より
パートナー企業向けAWARD表彰を受賞しました。

RPAとAI OCRの連携ソリューションや、導入済企業へのスケール支援等の活動に
ご評価を頂き、今年度は「デジタルトランスフォーメーション賞」を頂きました。

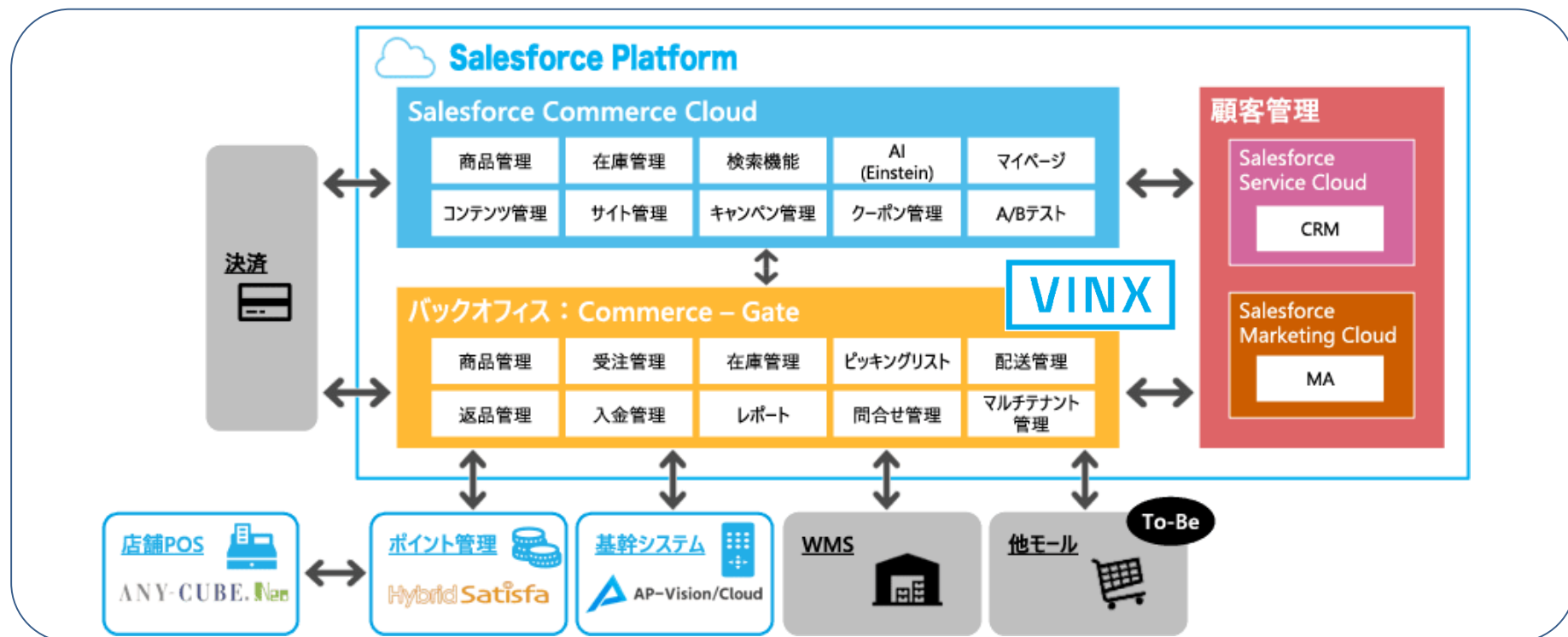


表彰理由

従来のデジタルレイバーの活用範囲にとどまらず、新たな技術要素との
コラボレーションや、コンサルティング等を通じ、デジタルレイバーの
概念を進化させ、DXの推進に寄与。

セールスフォースと協業し ネットとリアル店舗の融合を推進

- Salesforce AppExchange（ビジネスアプリケーションのマーケットプレイス）にECのバックオフィス機能モジュールをSaaSモデルで提供



レジの非接触対策

スピーディなウォークスルー決済で
お客様のレジ待ち時間を解消

- ・お客様自身が買いたい商品のバーコードをスキャンしながら、買い物をしていただくカートです。スキャン時には、販促クーポンも発行されることで、お客様とつながる新たなメディアになります。
- ・スピーディなウォークスルー決済で、レジ待ち時間や店舗の人手不足の解消にもつながります。

【当社グループのスマートショッピングカート（カート型POS）】

- ・当社グループのPOSプラットフォームを活用し、共同開発したスマートショッピングカート（カート型POS）がトライアルグループ様のディスカウントストアにて稼働しております。
- ・当社グループの(株)4U Applicationsは、トライアルグループ様と外販を目的とした合併会社(株)Retail SHIFTを設立しております。

2020年9月1日(火) TV東京「ガイアの夜明け」に登場
便利で楽しく安全に！ ～コロナで変わる小売りの現場～



レジの非接触対策

次世代キャッシュレス・セルフPOS

ANY-CUBE® Neo
POS for the Next Value

【キャッシュレス・セルフPOS導入実績】
2020年上期 2社 7店舗 49台
累計 2社 8店舗 58台

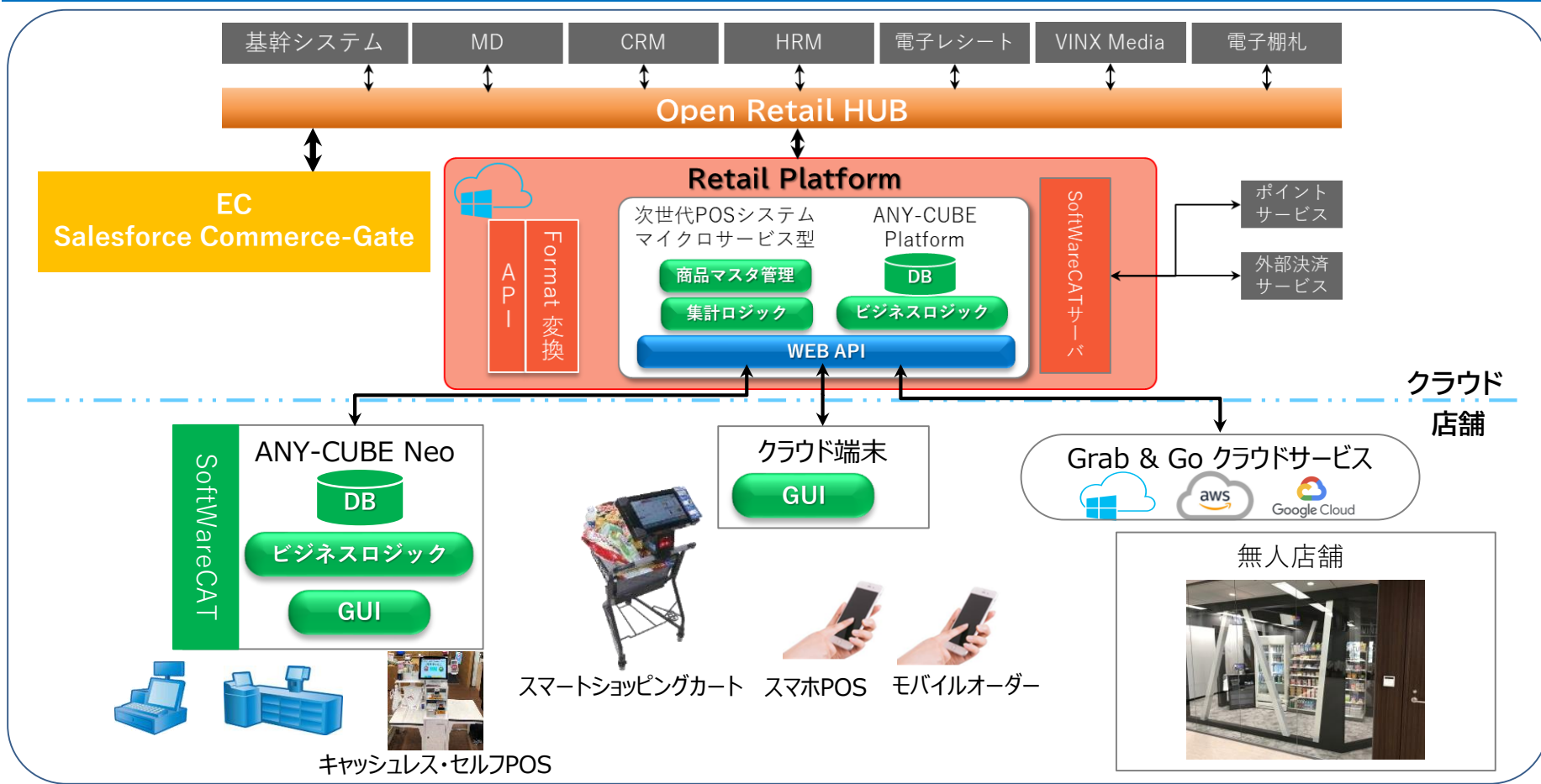
- ・現金取引をやめてキャッシュレス決済にすることで、金銭授受に伴う接触感染リスクを軽減
- ・レジでの対面取引を無くし、お客様自身によるセルフチェックアウトを実現、従業員のレジ業務での感染リスクを極小化

【当社のキャッシュレス・セルフPOS】

- ・既存のPOSシステムそのままに追加導入が可能です。
- ・あらゆるメーカーのPOSハードを活用することが出来ます。
- ・既存システムとのI/Fプラグインをご用意いたします。
- ・多彩な決済方法をスピーディーにご利用可能です。
- ・ANY-CUBEは累計10万台の実績を誇る安心のPOSシステムです。



POSの多様化や機能拡張、業務の連携に柔軟に対応できるプラットフォームを構築中



通期業績予測、配当 財務状況、キャッシュ・フローの状況

【連結業績予想などの将来予測情報に関する説明】

当第2四半期連結累計期間の業績は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、売上高は若干の計画未達となったものの、利益面は概ね計画通り推移しました。通期連結業績につきましては、引き続き当該感染症の影響による経済情勢の先行き不透明感もありますが、現時点では当初計画と大幅な差異は発生しない見込みであり、2020年2月12日付で公表いたしました2020年12月期通期業績予想値に変更はございません。

今後、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに開示いたします。

【配当方針、配当見通し】

当社は、株主様への利益還元を経営の重要課題のひとつとして認識しており、配当金につきましては、企業価値の向上とその水準の維持を可能とする範囲において、事業拡大のための内部留保を勘案しながら決定することを基本方針としております。内部留保資金につきましては、今後予想される事業規模拡大のため新規事業および新製品の開発に対し有効に投資してまいります。

(単位：円， 1株あたり)

	中間配当金	期末配当金	年間配当金合計	配当性向（連結）
2019/12期	5	8	13	19.9 %
2020/12期	6.5			
2020/12期（予想）		6.5	13	19.6 %

【貸借対照表】

単位：百万円、%、百万円未満切捨て

区分	2020年12月期 第2四半期末	構成比 (%)	2019年 12月期末	差額
流動資産	12,019	67.2	10,832	1,186
固定資産	5,854	32.8	6,081	▲226
＜有形固定資産＞	1,508	8.4	1,697	▲188
＜無形固定資産＞	2,286	12.8	2,171	115
＜投資その他の資産＞	2,058	11.5	2,211	▲153
資産合計	17,873	100.0	16,913	▲959
流動負債	6,531	36.5	5,960	571
固定負債	2,550	14.3	2,838	▲287
負債合計	9,082	50.8	8,799	283
純資産	8,790	49.2	8,114	676
負債・純資産 合計	17,873	100.0	16,913	959

＜貸借対照表のポイント＞

前期比の主な増減要因は、以下の通りです。

- ・資産
 - 現金及び預金 14億50百万円増加
 - 受取手形及び売掛金 2億18百万円減少
 - 仕掛品 2億 9百万円減少
- ・負債
 - 短期借入金 12億81百万円増加
 - 買掛金 1億21百万円減少
 - 未払金 2億70百万円減少
 - 未払法人税等 1億85百万円減少
 - 長期借入金 2億20百万円減少
- ・純資産
 - 利益剰余金 5億59百万円増加
 - 新株予約権 1億23百万円増加

単位：百万円、百万円未満切捨て

税金等調整四半期純利益	1,130
減価償却費	515
その他	57
小計	1,703
利息、法人税等の支払額等	▲503
営業活動によるキャッシュ・フロー ①	1,199
有形固定資産の取得による支出	▲161
無形固定資産の取得による支出	▲209
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	▲210
その他	▲14
投資活動によるキャッシュ・フロー ②	▲596
短期借入れによる収入	3,011
短期借入金の返済による支出	▲1,729
長期借入金の返済による支出	▲233
その他	▲158
財務活動によるキャッシュ・フロー ③	889
現金及び現金同等物に係る換算差額	▲36
現金及び現金同等物の増減額（▲は減少）	1,456
現金及び現金同等物の期首残高	4,246
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,703

＜キャッシュ・フロー計算書のポイント＞

第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物の残高は57億3百万円となりました。

詳細は以下の通りです。

①営業活動によるキャッシュ・フロー
営業活動の結果、11億99百万円増加しました。

②投資活動によるキャッシュ・フロー
投資活動の結果、5億96百万円減少しました。

＜主な要因＞

- ・無形固定資産の取得
プロダクトソフトウェアの開発等
- ・株式会社Ui2の株式取得

③財務活動によるキャッシュ・フロー
財務活動の結果、8億89百万円増加しました。

＜主な要因＞

- ・短期借入

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としたものではありません。

正確性を期すために慎重に行っておりますが、正確性・完全性を保証するものではありません。

また、本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は当社の公表している将来見通しとは大きく異なる結果となる場合があることをご承知おきください。

本資料に関するお問い合わせ

株式会社ヴィンクス
企画本部 経営企画部
e-mail : ir@vinx.co.jp